令和３年度　学校評価　自己評価結果等

本年度の重点目標	・生徒の自己有用感･自己肯定感を高める教育活動を推進する。 ・指導と評価の一体化を一層推進し、指導の質を高める。 ・質の高い教育を維持しつつ、教職員の多忙化解消に向けて取組を進める。		
分掌名	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	・ＰＴＡ事業のあり方を再確認し、よりよいＰＴＡ活動を目指す。 ・自主的な防災者としての意識を涵養する。	・保護者への情報提供、交流という視点で、役員会等でＰＴＡ事業について検討する。 ・現実的な条件を加えて防災訓練を行う。	・コロナ禍で役員間の情報交換・交流が少なく。ＰＴＡ活動の改善すべき点が明確化された。 ・内容を絞り込んだ防災訓練で、避難活動の課題が見つかり、改善に取り組む。
教務部	・基礎的基本的な知識の定着を前提とする「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 ・新教育課程に関わる評価の在り方について研究する。	・生徒一人一人の特性を理解しながら、計画的に学習し、主体的に学ぶ姿勢を育てる。 ・教科間で連携を取りつつ、評価の観点を整理し、具体的なものが作り上げていけるようにする。	・学習時間調査や生活記録への担任の助言、学年集会での呼びかけによって計画的な学習を促した。今後は主体的に学ぶ姿勢をどのように身に付けさせるか、具体的に検討する必要がある。 ・教科主任会を通じて教科間で連携を取りつつ、評価の観点を整理し、令和４年度に示すことができる評価案を作り上げることができた。
保健部	・学校内の環境を整備し、生徒が安心快適に学校生活を送ることができるようにすると共に美化委員会の活動を活発化させる。 ・教育相談を充実させ、生徒が安心して学校生活を送り、悩みなどを気軽に相談できる雰囲気をつくる。	・清掃状況を美化委員が点検して状況を把握し、環境美化への意識を高める。清掃コンクールを実施し教室環境の優秀なクラスは表彰する。 ・各委員会やＳＣ等との連携を密にし、個別の支援が必要な生徒には迅速に支援チームを立ち上げる体制を常時整えておく。 ・教育相談室を生徒が気軽に来室できるように整備する。	・美化委員による点検活動は実施できなかった。学校全体での環境美化への意識向上について今後も分掌内で考えていく。 ・個別に支援が必要な生徒に対して「ケース会議」を開催し、支援体制を整えることはできた。 ・教育相談室の利用者は少ないので、啓発活動を行い気軽に利用できるような体制を整える。
生徒指導部	・交通安全への意識の向上を目指し生徒が危機意識を持ち、安全に登校できる環境を作る。 ・いじめを許さない雰囲気をつくり、同時に支援を必要とする生徒をいち早く察知し、教員間で連携して支援できるようにする。	・交通立ち番の見直しを図る、交通安全教室の充実を進める。 ・いじめ・不登校対策委員会の充実、教育相談委員会との連携を進め、個別の生徒に対する支援チームを立ち上げるなどの対応を迅速かつきめ細かにできる体制を常時整えておく。	・交通立ち番の見直しについては継続審議中。より効果的な方法を検討していきたい。 ・今年度は結果的にいじめに該当する案件がなかったため検討することがなかったが、今後いじめに該当する案件が起こった際に、迅速対応できるように備えておきたい。
進路指導部	・系統的、計画的なキャリア教育を推進するとともに、生徒の進路希望の実現を目指す。	・系統的、計画的なキャリア教育を総合的な探究の時間を通じて実践するとともに、学年と連携をとり、生徒の進路実現に向けオリエンテーション、学年集会や進路だよりを利用して進路意識を高める。	・総合的な探究の時間だけでなく、ＬＴを通じて系統的、計画的にキャリア教育を実践することができた。 ・学年と連携をとり学期に一度の進路だよりの発行、長期休業中の進路課題を活用して、生徒の進路意識を高めることができた。・全学年、総合的な探究になったので、それに即した36か月計画を見直したい。
特別活動部	・人間関係形成能力と社会形成能力の育成を目指し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 ・社会の変化に、臨機応変に対応し、柔軟な発想ができるようにする。	・部活動や行事の活性化により、リーダーを育成する。 ・花いっぱい運動、地域美化などボランティア活動を推進する。 ・知立東のつどいなどの行事を通して、ICT活用を推進する。	・各行事、工夫して柔軟に対応し、校内での活動についてはほぼ実施することができた。また、行事や部活動では保護者の観覧ができない場面が多く、さらにHPなどで活躍の様子についてはきめ細かく発信したい。 ・地域ボランティアでは、知立市のクリーン活動の一環として地域に貢献できた。 ・ICTの活用について、多くの情報を生徒自身が自ら考え、取り組める環境を今後も推進していきたい。
図書研修部	・教科や学年と連携して図書館利用を推進し、読書週間や主体的な学習活動を通して豊かな人間形成を目指す。 ・現職研修を活性化して職員間の相互理解を促進し、教員の専門性を高め、教育技術の向上を図る。	・図書館企画により、本への興味を喚起し、来館者数や貸し出し冊数の増加を目指す。 ・教科や学年と連携しながら、読書活動を推進し、図書館の活用術や情報収集能力を高める指導を実施する。 ・公開授業週間で職員が研究授業や授業参観を積極的に行えるようにする。	・図書委員は例年通りの活動等を行うことができたが、来館者や貸出数は微増であった。次年度は企画の見直しも含めて、周知活動の活性化を図りたい。また、生徒の読書活動を推進するための方策については、次年度以降も継続して考えていきたい。 ・公開授業週間は一定の効果をあげている。今後は、職員間の授業参観等の活性化を目指した働きかけを行っていきたい。
１学年	・学校における基本的生活習慣の確立を図る。 ・高等学校の学習を始めるために必要な基礎・基本を身に付けさせる。	・挨拶をしっかりとさせる。 ・５分前集合を基本とし、時間を守らせる。 ・提出物の期限を守らせ、出し切らせる指導をする。	・高校生としての基本的な生活習慣を身につけることができた。提出物の期限を守るだけでなく、自分の力で最後まで解ききることや常に時間を意識して行動することができた。 ・ＬＴ総合的な探究の時間を通して、進路目標の設定などを始めることができたので、来年度以降、目標を達成させる手立てを考えさせていきたい。
２学年	・学習に対する高い意識をもたせ、学習習慣を身に付けさせる。 ・学校の中核を担う学年であるという意識をもって行動させる。	・具体的な進路目標をもたせるためにきめ細かく指導する。 ・日々の学習に対するアドバイスをする。 ・学校行事や部活動に積極的に参加させる。	・生活習慣については、概ね身につけることができた。学習時間については１時間未満の者が１０名程度まだいるが、多くのものは２時間、３時間で定着しつつある。日々声をかけ、受験に向けて学習時間を増やしていくことが今後の課題である。 ・大学研究を通して、進路目標を考えるようになってきたが、考えが甘い生徒も多い。引き続き面談などを通してきめ細かく指導をしていきたい。
３学年	・進路目標実現に向けて、高い目標をもち最後まで努力を続けさせる。 ・学校の中心としてどう動くべきかを常に考えさせる。	・個別面談等で、モチベーションを保つための声掛けや、アドバイスをこまめに行う。 ・定期的にリーダー会を開き、心構えや行動を考えさせる。	・受験や生活に関するアドバイスや相談を、個別面談で継続的に行うことができた。学年団で意識の統一や情報交換をする場をもう少し増やすことができるとよかった。 ・学校行事の前に開いたリーダー会では、心構えや行動をリーダーから学年全体へ伝達することができた。
総合評価	本校は、地域住民の方や中学校から進学校として一定の評価を得ている。これに加えて、高校卒業後に更に力を発揮できる生徒を育成するために、自己肯定感を高める指導を進める必要がある。本校の卒業生が地域で活躍することにより、本校に対する評価がより高められ、そうした卒業生の姿を見せることが、在校生の自己肯定感をより高めることにつながる。地域から信頼される高校に通学する生徒としての誇りを高める指導を継続したい。		